令和８年用生食もも病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
せんん孔細菌病防除 ①発芽直前		1．水（98ℓ）			350ℓ	1．ハーベストオイルに替えて、スプレーオイル50倍（発芽前、－）を使用してもよい。 2．トレノックスフロアブルに替えて石灰硫黄合剤10倍（発芽前、－）を使用してもよい。その際、アプロードフロアブルは加用しない。 3．コスカシバの春季対策として、開花期までフェニックスフロアブル500倍（開花期まで、樹幹散布１回）を樹幹部及び主枝に丁寧に散布する。 4．温暖な日を選び、かかりむらのないようにていねいに散布する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類 モモアカアブラムシ （ハダニ類）	2．ハーベストオイル50倍（２ℓ）	発芽前	－			
	縮葉病	3．トレノックスフロアブル500倍（200mℓ）	７日前まで	５回以内			
	カイガラムシ類幼虫	4．アプロードフロアブル1,000倍（100mℓ）	14日前まで	３回以内			
	殺虫剤、除草剤の散布制限	訪花昆虫を保護するため、開花１週間前から巣箱を撤去するまで殺虫剤並びに除草剤の散布はしない。					
【特別対策】シンクイムシ	ナシヒメシンクイムシ	1．ナシヒメコン100本／10ａ	－	－	－	1．下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を参照し、開花前に設置する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
せんん孔細菌病防除 ②開花前まで（風せん状）	せん孔細菌病 縮葉病	1．ＩＣボルドー412 30倍（3.3kg）	－	－	350ℓ	1．せん孔細菌病の重点防除時期なので、適期に散布する。特に前年せん孔細菌病の多発した園では防除を徹底する。 2．シンクイムシ類の多い園では、４月下旬にコンフューザーＮを150～200本／10a設置する（下表「交信かく乱剤」参照）。 3．ＩＣボルドー412に替えてクプロシールド1,000倍（発病前～発病後、－）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
せんん孔細菌病防除 ③落花直後（巣箱撤去後）		1．展着剤（ハイテンパワー）10,000倍（10mℓ）			400ℓ	1．ポリネーションの引き上げ後に散布する。 2．結実前の若木主体の園では、スコア顆粒水和剤に替えて、トップジンＭ水和剤 1,000倍（前日まで、６回以内）を使用してもよい。 3．ストマイ液剤20に替えてアグレプト水和剤1,000倍（収穫60日前まで、２回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	せん孔細菌病	2．ストマイ液剤20 1,000倍（100mℓ）	60日前まで	２回以内			
	灰星病 黒星病	3．スコア顆粒水和剤 2,000倍（50ｇ）	前日まで	３回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	4．モスピラン顆粒水溶剤㊧ 2,000倍（50ｇ）	前日まで	３回以内			
せんん孔細菌病防除 ④前回散布10日後	せん孔細菌病	1．ＩＣジンク水和剤 1,000倍（100g）	発病前～発病初期	８回以内	400ℓ	1．コスカシバが多い園では、スカシバコンＬを40～100本／10a設置する。 2．うどんこ病が見られる園では、トリフミン水和剤1,500倍（前日まで、３回以内）を散布する。 3．カメムシ類の発生が多い園では、５月中旬～５月下旬にスミチオン水和剤40 1,000倍（３日前まで、６回以内）を２～３回散布する。 4．ＩＣジンク水和剤に替えてマイコシールド2,000倍（21日前まで、５回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	灰星病 黒星病	2．トレノックスフロアブル500倍（200mℓ）	７日前まで	５回以内			
	アブラムシ類 カイガラムシ類 ハマキムシ類 シンクイムシ類	3．ダイアジノン水和剤34㊧ 1,000倍（100g）	前日まで	４回以内			
せんん孔細菌病防除 ⑤６月上旬	せん孔細菌病 果実赤点病 黒星病	1．ペンコゼブ水和剤 600倍（166g）	21日前まで	３回以内	400ℓ	1．今回防除から収穫終了期まで、バイカルティ1,000倍を加用してもよい。その際、リン酸の含まれる葉面散布剤は使用しない。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類	2．テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）	前日まで	２回以内			
	カイガラムシ類	3．トランスフォームフロアブル 2,000倍（50mℓ）	７日前まで	３回以内			
せんん孔細菌病防除 ⑥６月中旬	せん孔細菌病	1．マイコシールド 2,000倍（50ｇ）	21日前まで	５回以内	400ℓ		散布日 月　日 散布量 ℓ
	灰星病 黒星病	2．トレノックスフロアブル 500倍（200mℓ）	７日前まで	５回以内			
	シンクイムシ類 モモハモグリガ （カメムシ類）	3．アグロスリン水和剤㊧ 1,000倍（100g）	前日まで	５回以内			
せんん孔細菌病防除 ⑦６月下旬	せん孔細菌病	1．デランフロアブル㊧ 600倍（166mℓ）	７日前まで	４回以内	400ℓ	1．ダニオーテフロアブルに替えて、ダニコングフロアブル2,000倍（前日まで、１回）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2．サムコルフロアブル10 5,000倍（20mℓ）	前日まで	２回以内			
	ハダニ類	3．ダニオーテフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	１回			
⑧７月上旬	灰星病 果実赤点病	1．パスポート顆粒水和剤 1,000倍（100ｇ）	前日まで	６回以内	400ℓ	1．シンクイムシ類、モモハモグリガが多い園では、防除間隔を10日以上空けないようにする。 2．ナシヒメシンクイの多い園では７月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類 シンクイムシ類	2．スタークル顆粒水溶剤 2,000倍（50ｇ）	前日まで	３回以内			
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。							

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前使用日数	総使用回数	10a当たり散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
灰星病重点防除 ⑨ 7月中旬	灰星病 黒星病 うどんこ病	1．オンリーワンフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	3回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類	2．ダイアジノン水和剤34㊧ 1,000倍（100ｇ）	前日まで	4回以内			
⑩ 7月下旬	灰星病	1．ロブラール500アクア 1,500倍（66mℓ）	前日まで	3回以内	400ℓ	1．果実汚染に十分注意する。 2．ダニゲッターフロアブルに替えて、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日まで、1回）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 モモハモグリガ ハマキムシ類	2．エクシレルＳＥ 2,500倍（40mℓ）	前日まで	3回以内			
	ハダニ類	3．ダニゲッターフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	1回			

散布時期	適用病害虫	早生：紅国見・あかつき	中生：いけだ・川中島・黄金桃	晩生：あぶくま・だて白桃・ゆうぞら	10a当たり散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
⑪ 8月上旬	灰星病 黒星病 うどんこ病	1．パレード15フロアブル 2,000倍（50mℓ）（前日まで、2回以内）			400ℓ	1．早生種でせん孔細菌病が多い園では、収穫後直ちにＩＣボルドー412 30倍（－、－）を14日間隔で２～３回単用散布する。 2．ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類	2．スカウトフロアブル 2,000倍（50mℓ）（前日まで、5回以内）					
⑫ 8月中旬	灰星病 黒星病		1．アンビルフロアブル 1,000倍（100mℓ）（前日まで、3回以内）		400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類		2．バリアード顆粒水和剤㊧ 2,000倍（50ｇ）（前日まで、3回以内）				
⑬ 8月下旬	灰星病		1．ナリアＷＤＧ 2,000倍（50ｇ）（前日まで、2回以内）		400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ		2．スカウトフロアブル 2,000倍（50mℓ）（前日まで、5回以内）				
⑭ 9月上旬	灰星病			1．インダーフロアブル 5,000倍（20mℓ）（前日まで、4回以内）	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 モモハモグリガ			2．モスピラン顆粒水溶剤㊧ 2,000倍（50g）（前日まで、3回以内）			
⑮ 9月中旬	灰星病			1．アミスター10フロアブル 1,000倍（100mℓ）（前日まで、3回以内）	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ			2．ロディー水和剤㊧ 1,000倍（100g）（前日まで、5回以内）			
⑯ 9月下旬	灰星病			1．オーシャインフロアブル 2,000倍（50mℓ）（前日まで、3回以内）	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	シンクイムシ類 モモハモグリガ			2．ヨーバルフロアブル 5,000倍（20mℓ）（前日まで、2回以内）			
9月中旬 ⑰ 収穫下旬後	せん孔細菌病	1．展着剤（アビオン－Ｅ） 1,000倍（100mℓ）			400ℓ	1．ＩＣボルドー412に替えて、クレフノン100倍加用のコサイド3000、2,000倍（収穫後～落葉まで、－）又は、クレフノン100倍加用のクプロシールド1,000倍（発病前～発病初期、－）を使用してもよい。 **りんごの隣接園では散布の際に飛散しないように十分注意する**	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2．ＩＣボルドー412 30倍（3.3kg）	－	－			
	モモハモグリガ	3．スミチオン水和剤40 1,000倍（100ｇ）	3日前まで	6回以内			
⑱ 9月下旬	**近年、せん孔細菌病が多発しているので、落葉前までにＩＣボルドー412 30倍（－、－）を必ず２回散布する。**						
	せん孔細菌病	1．展着剤（アビオン－Ｅ） 1,000倍（100mℓ）			400ℓ	1．例年コスカシバが多い園では、落葉後ガットサイドＳ1.5倍（30日前、1回）を樹幹部及び主枝に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2．ＩＣボルドー412 30倍（3.3kg）	－	－			

薬剤名	希釈倍率	収穫前使用日数	総使用回数	使用時期 7月	使用時期 8月
カネマイトフロアブル	1,000倍	7日前まで	1回	○	
コテツフロアブル㊧	2,000倍	前日まで	2回以内		○
コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回		○

耕種的防除

全般	1．適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2．園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分は６～７月中に徒長枝管理を行い、冬季に切りすぎない。 3．日焼け・凍害防止のため、主幹部にホワイトンパウダーを散布または塗布する。
せん孔細菌病	**1．風の強い園では、防風対策を徹底する。** **2．樹勢が弱いと発生が多くなるので適正な樹勢の維持に努める。** **3．前年の被害枝は剪定時に切り取り園内に放置せず、適切に処分する。**
灰星病	1．被害部位（花・葉・果実）は、見つけしだい除去し、土中深く埋める。 2．枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
カメムシ類	1．卵塊・ふ化幼虫は見つけしだい捕殺する。

生食もも施肥基準（成木：10a当たり）

作型・目標収量	肥料名	施肥量（kg）	施肥時期	N	P	K
生食もも 2,500kg	フレッシュフルーツ有機70	100kg	収穫後（10月上旬）	10.0	5.0	2.0

交信かく乱剤（シンクイムシ対策）

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	コンフューザーＮ	４月下旬にコンフューザーＮを150～200本／10a設置し、７月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	

1．設置場所は、目通りの高さに８割、２割を上部に、園内均一に設置する。
2．傾斜上部の設置割合を１～２割多くする。
3．園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4．防風ネットなどを利用する。
5．高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

凍害防止

1．夏季管理も行い、大きな切り口を作らないよう、注意する。
2．主幹部に白塗剤を塗布することで、冬期における樹体温度の上昇を抑え、凍害を防止します。
3．水６ℓにホワイトンパウダー２kgを徐々に入れ、十分撹拌してペースト状にする。10分間程度放置後、ブラシなどで塗布する。